

「学校・家庭・地域」が 連携した「防災学習」

～合言葉は「命・支え合い・自ら動く」～

名古屋大学 減災連携研究センター 防災教育スーパーバイザー
独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 防災教育担当専門家
近藤ひろ子

自己紹介1

2003年<知多郡美浜町立布土(ふつと)
小学校 愛知県教育委員会より
防災教育の研究委嘱>

2004年<布土小学校 文部科学省より
防災教育の研究委嘱>

- ◎「命の学習」としての「防災学習」
- ◎学校・家庭・地域が連携した
地域ぐるみの防災教育

自己紹介2

2007～2010年

<常滑市立鬼崎北小学校>

- ◎地域へ向けて、
「命・防災」の発信
地域ぐるみの、
「避難所生活体験講座」(2回)
「防災体験講座」(4回)

自己紹介3

2005年<JICAより、「津波復興支援」でモルディブ国>

◎被災前(防災)に目を向けた、「人育て、コミュニティ育て」

2006年～

<JICAより、防災教育専門家として、タイ国(7回)>

◎タイ国の防災体制づくりについて、提言・アドバイス・協働

・トップダウンの施策 ー ボトムアップの施策

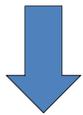
・中央政府と地方の連携体制づくり

2012年～

<JICAより、防災教育専門家として、ブラジル(2回)>

◎ブラジル国州政府の防災体制づくりについて、提言・アドバイ
ス・協働(サンパウロ州・ミナスジェライス州)

「防災」の 3つのキーワード



眼・モノ・心

「眼」

★「どうなる？」(現状認識の眼)

★「どうする？」(行動認識の眼)



自分たちの問題としてとらえ

自分たちの頭で考え

自分たちで行動を起こしていく力

「モノ」

①子どももおとなも

②地域ぐるみで

③行政(中央も地方も)が主体的に

「自助」「互助・共助」「公助」の考えに沿って、
できる人が、できることから一つずつ



「あせらず、力まず、あきらめず」を
合言葉に、「防災力」アップへ

「心」

★自分の命も他の人の命も
大切にする心.....<命>

★助け合い支え合って
生きていく心...<支え合い>

★自分の頭で考え、自分で行動
していく心.....<自ら動く>

子どもは「希望」「未来」
小学生が学校にいる時間は？

(1年間の在校時間)
 (24時間×365日)

およそ **1 / 10**

**地域ぐるみじゃないと
 子どもの命は守れない！**

学校と家庭・地域の連携

◎ **学校**・・・地域の核として
「命・防災」を、
 家庭・地域に発信・受信

◎ **家庭・地域**
 ...地域の現状・ニーズを
学校に発信
組織力で学校をサポート

小学校・中学校で、防災学習が
 なぜ 大切なのか？

◎ **「命の学習」**の場

◎ **地域の核として、まず発信**

◎ **児童・生徒育て**
 (20年後には、「防災」の中心になる)
→ 「防災の未来人(みらいびと)育て」

(「防災の未来教師育て」を！)

「命の学習」としての「防災学習」

1 防災「心」・防災「学び」・防災「トライ」

A 「自分の命も他の人の命も大切に作る心」「助け合い
 支え合って生きていく心」「自分の頭で考え自分で行
 動していく心」をもつ。<防災「心」>

B 地震時に、自らの命を守るための行動がとれるように
 するための知識を身につける。<防災「学び」>

C 防災・減災に向けて、自分ができることを見つけ、トラ
 イしていく。<防災「トライ」>

2 発達段階を見通した
 『ねらい(A...防災「心」、B...防災「学び」、C...防災「ト
 ライ」)』・『学習フィールド』・『学習テーマ』

「命の学習」としての「防災学習」



- ◎スパイラルで高まっていく
- ◎どの学習場面においても、コンセプトは、**「眼」「モノ」「心」**

「命の学習」としての「防災学習」を！

「防災学習」は、特別なものではない。(アイデア下さい！なんでもあり！)
「命・支え合い」にかかわる学習はすべて「防災学習」につながる。

すべての学習の中で、「命」「防災」を！



現在使われている教科書に

「防災」は

かなり多く、入っている



教師の扱い方次第で、

生きた「防災学習」に！

教科の学習に「命・防災」を
積極的に取り入れていく



◎学習の意欲化・活性化

◎子どもたちの中に

「命・防災」が根付く

家庭・地域と

連携した

「防災学習」

防災体験講座

<参加者>

・児童・保護者・地域住民

<協力者>

・消防署・防災ボランティア・学区会
・日本赤十字社・名古屋大学・海上保安庁
・市町教育委員会・市町防災課
・老人会・婦人会・農業協同組合 etc

<防災体験講座 内容例>

- ◎応急手当
- ◎防災倉庫見学
- ◎煙体験
- ◎防災物知りコーナー（「ぶるるくん」）
- ◎非常食・非常持ち出し品
- ◎毛布の担架作り
- ◎消防服体験
- ◎消火訓練
- ◎放水体験
- ◎救助袋
- ◎ロープワーク
- ◎炊き出し訓練
- ★防災オリエンテーリング

応急手当講座



消火訓練



学区防災倉庫見学



放水体験



煙体験



救助袋



防災物知りコーナー 1



防災物知りコーナー 2



非常食・非常持ち出し品コーナー



毛布の担架



ロープワーク



消防服体験



すべてのコーナーで、地域のお年寄りが協力していただきました。



地域防災オリエンテーリング



災害救助用炊飯袋(ハイゼックス)



炊き出し訓練



避難所生活体験

<参加者>

・4～6年児童・保護者・地域住民

<協力者>

・消防署・防災ボランティア・学区会

・老人会・婦人会・農業協同組合

・市町教育委員会・市町防災課etc

<避難所生活体験 内容例>

◎ HUG(避難所運営ゲーム)

◎ 炊き出し訓練(ハイゼックス使用)

◎ 防災もの知りゲーム

◎ 非常食・非常持ち出し品ゲーム

◎ 毛布の担架作り ◎ ロープワーク

◎ 応急手当 ◎ 消火訓練

◎ 放水体験





「学校という場」での
地域ぐるみの「防災学習」

それぞれの活動を、立案・計画・実施をするごとに、参加者（住民・PTA・教員・子ども・協力者等）の中に高まってきたもの

- ★ 「災害」を「わがこと」と思う気持ち
- ★ 防災の必要性の自覚
- ★ 「防災仲間」としての連帯感

地域ぐるみの
「命・防災」の第一歩！

「おはよう」と声かけ合える
顔の見える、関係づくり

みんなで力を合わせて生き延びていく

「防災の未来人（みらいびと）」
になろう！

一人一人が...

- ★ 助けられる人から

助ける人に

- ★ してもらう人から する人に

- ★ ついて行く人から

自ら動く人に

タイ国教育省副大臣の言葉から...

「『自分の命も他の人の命も大切にする心』

『支え合い助け合って生きていく心』を、子供たち一人一人の中に、いや、国すべての人の中に育てていくことは、そのまま温かい血

の通った国づくりにつながっていきます。

それぞれの国で温かい国づくりをしていくことは、平和な世界づくりにつながっていくのです

みんなで手をつなぎあって、できることから、一つずつやっていきましょう。」

子どもたちの 笑顔と命の ために...

現在使われている教科書に
「防災」は
かなり多く、入っている
↓
教師の扱い方次第で、
「生きた「防災学習」」に！

小学校6年 理科 (教育出版) **「土地のつくりと変化(火山・地震)」**



1 地震の大きさの表し方

地震の大きさは何で表すのだろうか。

地震によるある地点での地面の揺れの程度を震度といい、日本では10段階に分けられている。震度は震度計とよばれる種の地震計で観測して決められる。

震度 震度階級と各震度での揺れや被害のようす

震度	人の体感・行動	屋内外の状況
0	人は揺れを感じないが、地震計には記録される。	
1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	
2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。	電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には揺れを感じる人もいる。	壁にある食器類が音を立てることがある。電線が少し揺れる。
4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。	電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、壁にある食器類は音を立てる。自動車も揺れていて、揺れに気づく人がいる。
5	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	壁にある食器類、書棚の本が落ちることがある。固定していない家具が移動することがある。道路に被害が生じることがある。
6	大半の人が、物につかまらないうつろい、行動に支障を感じる。	壁にある食器類や書棚の本で、落ちるものがある。固定していない家具が移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。確認されているプロクサ留も破壊するものがある。
7	立てていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものがある。壁のタイルや窓ガラスが破壊、落下することがある。
8	立てることができず、はたは動くことができない。揺れにほんとうに恐れ、動くこともできず、押しつぶされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。確認されているプロクサ留も破壊するものがある。

【あわせて】

- 頭を保護し、机の下などに避難。
- 歩いて外に飛び出さない。

【まず身の安全を】

- 近づく女、門や扉、自動販売機やビルのそばは避ける。
- 海岸でくらっときたら高台へ。

4 地震の起こる場所

日本付近で起こった地震の震源から何がわかるのだろうか。

図28からわかるように、浅い所で起こる地震は、太平洋側で日本列島にそった地域と、内陸部で多く発生している。深い所で起こる地震は、本州の日本海側で多く発生している。

図28 1988—2008年に日本付近で起こったマグニチュード4.5以上の地震の震央の分布(上)と四角枠内の震源の深さ分布(下)

2 地震の起こる場所

地球の表面は、プレートとよばれる十数枚の板でおおわれている。日本付近では、図29のように4枚のプレートがおし合っている。海のプレートが陸地のプレートの下に沈みこんでいる。

プレートとプレートの境目で起こる地震は、太平洋側で日本海側にいくにしたがって深くなる、なまめに浅い面をそって起こる。マグニチュードが8近くの日本付近の大きな地震は、このようなプレートの境目の地震である。おもに日本の太平洋側の海底で起こるため、地震のときに大きな津波が起こることも多い(図30)。日本列島の直下の浅いところで起こる地震は、陸地のプレート内の活断層が動いて起こる地震で、プレートの境目の地震と比べるとマグニチュードが小さい。日本で大きな地震は何十年おきにしか起こらないが、人間が感じないようなものもよくめると、地震は毎日数多く起こっている。

図30 日本付近のプレート

図31 プレートの境目で起こる地震

【あわせて】

- 震源のずれで、今後起こる可能性のあるものも、近い将来必ずや起こるといえる。

【あわせて】

- 震源のずれで、今後起こる可能性のあるものも、近い将来必ずや起こるといえる。

【あわせて】

- 震源のずれで、今後起こる可能性のあるものも、近い将来必ずや起こるといえる。

15 地震によって起こる液状化の現象を実験で確かめてみよう(関連→p.220, p.222)

① A, B二つのピーカー(または半分切ったペットボトルなど)にそれぞれ土を入れて、上から水をじゅうぶんに注ぐ。

② 土に水がよくしみこんだら、土の表面に浮いている水を捨て、土の高さに油性サインペンで印をつける。

③ Aの土の中に、発泡ポリスチレンの小さな棒を完全に埋める。Bの土の表面には、小さな玉や小石などを置く。

④ A, Bをそれぞれダンボール箱の上に置いて、箱を細かく揺動させ、どのような変化が起こるかよく観察する。

⑤ 揺動させた後、それぞれの土の高さに油性サインペンで印をつける。

⑥ 揺動する前と後で、土の高さはどのように変化したか。また、発泡ポリスチレンの小さな棒は、地中に埋められているガス管やマンホールなどを、土の表面に置いた小さな玉や小石などは建物を表しているの、実際の液状化で起こった現象や被害などと対応させてみよう。

16 地層のモデルをつくってどのような断層ができるか観察してみよう(関連→p.243)

① 長細い透明容器、その容器に入る箱2個を用意し、右の図のようにして小麦粉とココアの粉で水平な地層のモデルをつくる。

② 左右から箱をおして、断層のできるように観察する。

★ 右からだけおすとどのような断層ができるか。また、左からだけおすとどのような断層ができるか。

中学校 地理 (東京書籍) 「**自然災害と防災への取り組み**」

5 自然災害と防災への取り組み

日本は自然災害の多い国です。自然災害は、人々の生命や財産に大きな被害をもたらします。自然災害から身を守るためには、自然災害の発生を予測し、被害を軽減するための取り組みが必要です。

自然災害の種類には、地震、台風、火山の噴火、洪水、大雪などがあります。自然災害は、人々の生命や財産に大きな被害をもたらします。自然災害から身を守るためには、自然災害の発生を予測し、被害を軽減するための取り組みが必要です。

身近な地域で起こる可能性のある災害をよく知るとともに、防災に協力することも必要です。

地理にアクセス **防災マップを調べよう**

現在、市町村では、さまざまな防災マップ(ハザードマップ)をつくっています。地図には、地震や洪水のほか、海岸沿いの地域では津波の、火山のふもとでは噴火などの被害予測が記されています。また、避難場所や防災関連施設などの情報も、もろこまれています。このような地図は、自然災害による被害をできるだけ小さくおさえることを目的としてつくられています。自分が住む地域の防災マップを調べて、地域で起こる自然災害に関する正しい知識を身につけるとともに、避難の方法を知るとは、災害への備えとしてとても重要です。

⑧ 鎌倉市の防災マップ

あなたの住む地域で起こる可能性のある災害一つあげ、どのような防災対策が必要か説明しましょう。

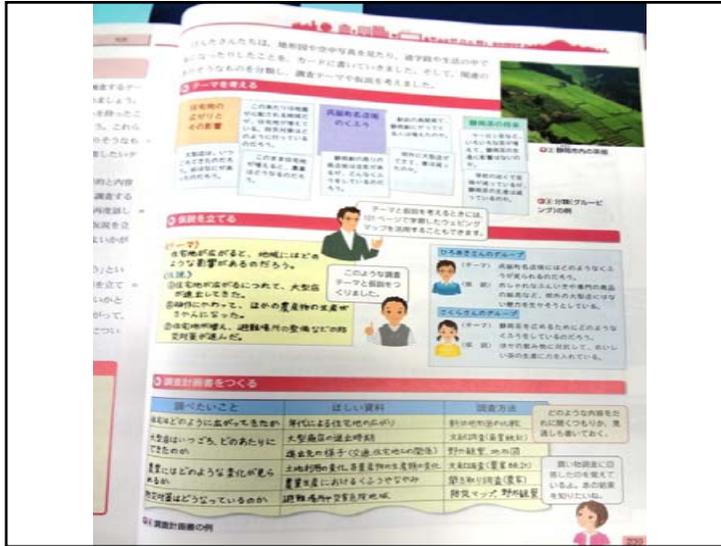
1節 世界から見た日本の自然環境

中学校 地理 (東京書籍) 「**身近な地域の調査**」

4 身近な地域の調査

身近な地域の調査は、地域の現状を把握し、課題を明らかにし、改善策を立案するために重要です。調査の方法には、アンケート調査、インタビュー調査、フィールドワークなどがあります。調査の結果は、地域の現状を把握し、課題を明らかにし、改善策を立案するために重要です。

調査の目的	調査の方法	調査の結果	調査のまとめ
地域の現状を把握し、課題を明らかにし、改善策を立案するために重要です。	アンケート調査、インタビュー調査、フィールドワークなどがあります。	調査の結果は、地域の現状を把握し、課題を明らかにし、改善策を立案するために重要です。	調査の結果は、地域の現状を把握し、課題を明らかにし、改善策を立案するために重要です。

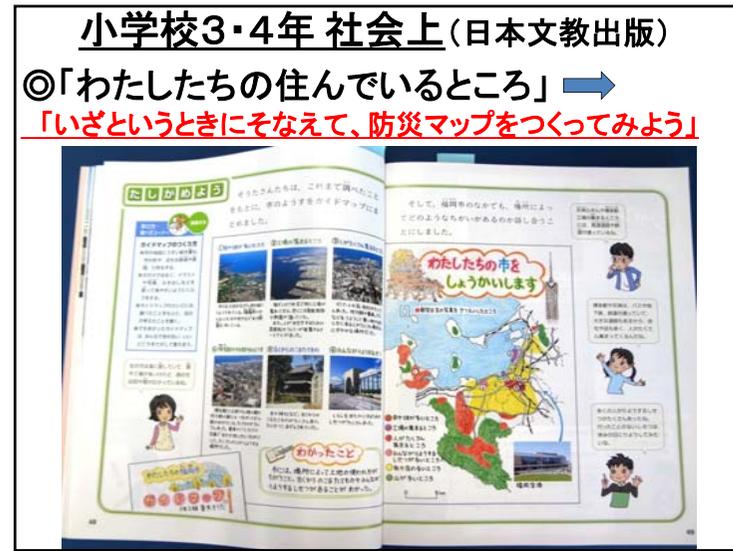


教科の学習に「**命・防災**」を積極的に取り入れていく

↓

◎学習の**意欲化・活性化**

◎子どもたちの中に「**命・防災**」が根付く





3年 児童集会でよびかけ



全校図上訓練



小学校3・4年 社会 上 (日本文教出版) ◎「今にのこる昔とくらしのうつりかわり」 ➡「ちいきには、昔 どんな災害があったの？」



小学校1・2年 生活科上(光村図書)

◎「みんなでわくわく がっこうたんけん」

→「がっこうの あぶないところさがしをしよう」

<ぼうさいすごろく>



小学校・中学校 家庭科の学習で

「タオルで作る防災頭巾」



<家の中 「安全」合言葉>

うごいてこない
たおれてこない
おちてこない

小学校3年 理科(大日本図書)

◎「光のはたらきをしらべよう」(ソーラークッカー)

→「ひなん生活で役立つもの」

らきについてまどめましょう。

①かがみをつかうと、太陽の光を()
ことができます。はねかえした光は、()
すすみます。

②かがみではねかえした光をあつめるほど、光をあ
てたところは(),そして()
なります。

③虫めがねをつかうと光を()ことがで
きます。

学んだことを生かそう

右の写真の道具を
つかうとりょうりを
することができます。
そのりょうをせつめ
いしましょう。

光をはねかえす板

なべ

ソーラークッカー

たくさんのかがみで
光をあつめているのと
同じだね。

小学校 図画工作・中学校 美術
「防災のポスターを描こう」



小学校5年音楽(教育出版)
「心から心へ」(→支え合いの心育て)



心から心へ

★きみの手と ぼくの手を かたくにぎり
★わけあおう ぼくたちの 心のぬくもりを
ほら ごらん 風も雲も きみを見てる
ほら ごらん ひとりじゃない
みんな ほほえんでいる

(★ くりかえし)

<タイにて> 手話をつけて、
「心から心へ」の歌を歌おう!



6年生「伝えよう！命・助け合い・希望・未来」



美浜町産業祭り



東浦町産業祭り



避難するときの

2つの合言葉

「い・つ・も」

「お・か・に」

<リードしてくれる人が
いるとき>

いっしょうけんめい

ついていく

もどらない

<リードしてくれる人が
いないとき>

おちついて

かんがえる

(どこを、どこへにげる?)

にげる (いちもくさんに!)

地震・津波 防災ソング

♪「い・つ・も」「お・か・に」

- 1 じしんだ (じしんだ)
つなみだ (つなみだ)
みんなで (みんなで)
いっしょに (いっしょに)
さあ みんなで にげよう
さあ みんなでいっしょに
にげよう

おとなりさんにも 声かけて
みんなでにげる そのときの
命を守る あいことば

※ 「い」 いっしょうけんめい
「つ」 ついていくんだ
「も」 もどっていかない
ぜったいもどらない

2 じしんだ (じしんだ)
つなみだ (つなみだ)
ひとりの (ひとりの)
ときだって (ときだって)
さあ にげよう にげよう
さあ ひとりのときだって
にげよう
どこにむかって にげようか

ひとりでにげる そのときの
命を守る あいことば

★ 「お」 おちついてみて
「か」 かんがえるんだ
「に」 にげる にげるよ
おかに にげるよ

<※ <りかえし>

<★ <りかえし>